

はじめに

平成27年度は前所長の三上 智氏からバトンを受けて、地元である滝沢市を拠点として北東北4県で「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」運動の一層の推進を図るとともに、青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たすべく、岩手県内の青少年施設はもとより東北地区の各青少年施設と連携を進めた1年でした。

岩手県内に立地する施設として「震災から復興する岩手県」を感じ、震災を風化させないためにプログラムに防災学習を加えて、岩手県内陸部と沿岸部の児童生徒の交流と、海での体験活動をとおして被災地理解を行う「さんりく体験！探検ツアー」を実施するとともに、被災した沿岸地域の子供たちを応援するために行っている「kid's together えいご de キャンプ」も5年目を迎えました。これらの教育事業は、今後も内容に検討を加えながら継続して実施していきたいと考えています。

また、看板事業として取り組んできた岩手県内の児童養護施設と連携した「タートルズキャンプ」は6年目を迎え、着実に成果を上げるとともに、モデル事業として実施してきた通学合宿「テンちゃん一家の一週間」は4年間の蓄積を報告書にまとめましたので、一読いただけますと幸いです。

今年度は、当施設で活躍いただいているボランティアの育成のための取り組みとして、「岩手山ボランティア育成ビジョン」を策定し、大学生・高校生ボランティアの「社会を生き抜く力」の養成を目指す、循環的な育成の本格的なスタートを切った年でありました。そのために新規事業として、ボランティアの主体性を育む「ボランティア・ブラッシュアッププロジェクト」を行い、4つのプロジェクトチームが登山、子供向け自然体験キャンプ、映画製作、ボランティア交流事業に取り組んでいただきました。

また、これまでの取り組みの成果として、本年度は機構本部から全国28施設の中で最多の6名のボランティアが理事長表彰を受賞することができました。

加えて当施設のボランティアの皆さんが、機構本部の事業である「世界の仲間とゆく年くる年」や「学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」の学生企画委員として参画するほか、「日独学生青年リーダー交流派遣事業」に参加するなど活躍の幅が広がった年でもありました。

このように平成27年度は「安全と健康、そして復興とその先の笑顔」として運営してまいりましたが、次年度に向けてさらに魅力を増す事業を実施してまいりますので、一層の御支援、御鞭撻の程よろしく申し上げます。

平成28年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所長 松田 栄二